



皆様ご存知、桂川町が誇るスター、現役プロ野球選手の藤川俊介さんに、桂川町 町制施行70周年を記念して、インタビュー企画を実施。幼少時の昔話から、故郷に対する熱い想い。そこには、謙虚で情熱的な等身大の藤川さんの姿がありました。

「野球は、小学1年生ではじめてたと思いました。きつかけを教えてください。」

俊介 元々家族が野球好きで、野球をやっていた兄の影響がとても大きいと思います。体を動かすのが大好きというか、動かしてないと気持ち悪いという子どもだったみたいで…。

「桂川町は、藤川さんにとって一体どんな町ですか？」

俊介 はい。とにかく、野球で育った町という印象がとても強いですね。いろんな意味で本当に感謝しています。だからこれからは、町への感謝の気持ちを込めて、帰省した時などは野球教室など開いていきたいと思っています。最近の子どもたちは運動能力が落ちていくとか、あまり外に出ない、外で遊ばないと聞いていますからね。子どもたちにスポーツを通しての楽しさ、野球の魅力やプロ選手の魅力を伝えていきたいですね。

「野球を通して学んだ事は何ですか？」

俊介 礼儀だと思っていますね。高校でもそうだし、野球はプレーだけじゃないんだと学びました。挨拶はもろんな道具への感謝などですね。

「今後どうい選手になりたいという人物像がありますか？」

俊介 特別に誰というような選手はいないですけど、小さい子どもたちの憧れとなるような選手になれたらと思います。記録とかそういう技術というよりも、礼儀とか人としての基本がきちんとした本物の一流になりたいですね。一厳しいプロの世界。壁に当たった時は、どう過ごしていますか？」

俊介 そうですね。今は悔しくてもやらないといけない立場ですからね。やる以上失敗はつきものですし。ただ、失敗したから焦って練習するんじゃないやなくて、僕の場合は、出来るだけあまり入れ込み過ぎないようにしています。

「お母さんにお伺いします。幼少時代の藤川選手はどんな子でしたか？」

母 小さな時から落ち着ぎのない子で、何かスポーツをさせたいなとは思っていました。上の子の影響で、幼い時からボールで良く遊んでましたし。また、この子は地域に育てて頂いたと言えますね。「俊介はあっちにいったよ」とか、悪いことしたら、私たちよりも地域の皆様から叱って頂いたり。本当に地域の方に育てて頂いたと感じています。その中で、本人はのびのびと野球に打ち込んだ幼少期ではないですかね。本人も、桂川町は家族との思い出よりも野球との思い出が強いんじゃないでしょ

うか。

「本人の意思で、これまで全ての道を選択させたと同じました。これは、藤川家の教育の一つですか？」

父 そうですね。高校も大学も自分で決めさせました。もちろん、本人なりに監督さんとか相談したり悩んだ上で決断はしたんだと思います。高校の時も、中学時代に監督と広島に学校訪問した帰りには、すでに決めていましたからね。そのかわり、本人が行きたいというからは全面的にバックアップしました。最後まで諦めずにやりなさいと。自由に選択を任せる分、責任は子ども自身に持たせてるかもしれない。この子にはこの子の人生がありますから。

「自分で選択をさせたとありましたが、当時はどのような心境でしたか？」

俊介 結局やるのは自分ですからね。周りにどう言われても、結局は自分次第なんですね。思うことをしっかりやる。嫌々やるんだしたらやらない。少しでもやる意味があるなら、やってみる。やった分必ず実になりますからね。

「最後に桂川町の子どもたちへ、熱いエールを頂けますか？」

俊介 はい。僕は野球を通して、体も強くなったし、人の輪も広がりました。だから皆さんには、野球をするしなにして、自分の決めた道をとことん楽しんでやってほしいなと思いますね。自分の人生なんです。自分で決断した道を強く責任をもって歩めば、自然と楽しいものになっていくんだと思います。頑張ってください。



(写真：騎馬戦上) 小学校時代の騎馬戦。とにかく負けず嫌いでしたね。



(写真：中心) 野球クラブ時代は、ほんとに野球三昧。野球漬けで、遊ぶ日もなかった。ほんとに野球が好きで好きでたまらない子ども時代でした。